

春の名句

花散るや  
耳ふって馬の  
おとなしき

春の  
図書館を  
詠む

村上鬼城

● 本学の所蔵資料

● 俳句の説明

満開の桜の木の下につながれている馬が、散る花びらが耳にふりかかるのも気にせずおとなしくしている。のどかな春の日がほのぼのと伝わってくる。

『あなたの俳句はなぜ

佳作どまりなのか』(新潮文庫)

辻 桃子著

請求番号：911.307/Tsu

本館第1閲覧室

頓珍漢素人俳壇

本学園の  
学生・教職員の方々から  
投句いただきました。

新入生 蔵書の山に 夢を刷く

多作一景

山茶花に 夢を語りて 桜露い

日向雅

ひらひらと 空行く客人 花咲翁さん

欽作

新学期 手帳に挟む 一輪草

多誤作

物語り 読み進め行く 春の風

エミリー

春想ひ 読み終えぬまに 駆け抜ける

多聞

春の日に 心踊らせ 図書館へ

レイチエル

春の陽に 君つつまれし 晴れ姿

遊亀

新刊本 思い出すのは 春かほり

さゆり

読書家の 葉を攫って 春一番

ノンブル

皆様のご協力で